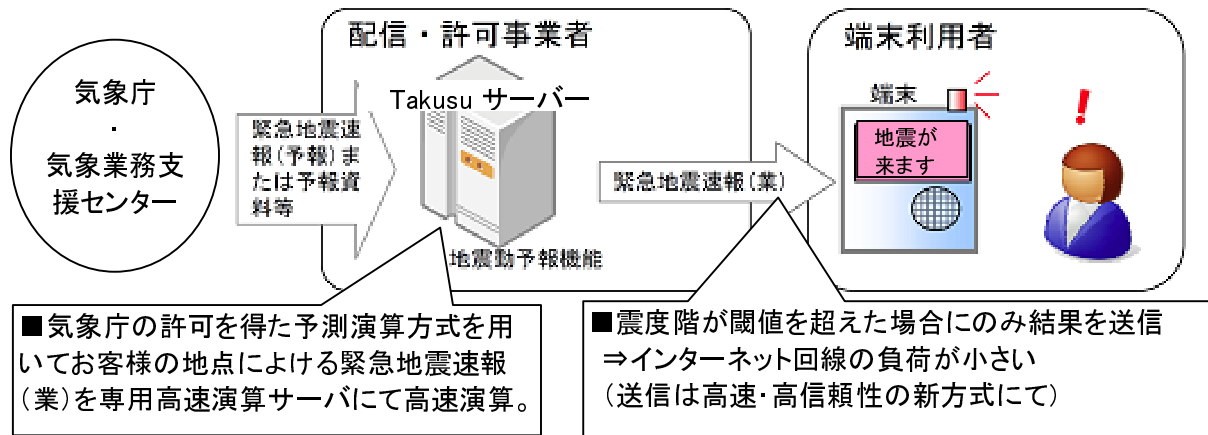


■ Takusu のサーバー予報型の特徴

お客様の手元に設置する端末で緊急地震速報(予報)に基づく予測演算を行うのではなく、Takusu サーバにて、お客様の地点(緯度・経度)における地震の主要動の到達までの猶予時間と主要動の震度階を予測演算を行い、その結果、予測される震度階があらかじめ定めた閾値を越える場合にのみ受信端末へ緊急地震速報(業)を送信します。受信端末は受け取った猶予時間と震度階に応じた制御・報知動作を行います。



端末演算方式との比較

項目	受信端末演算方式	サーバ演算方式
サーバの役割と配信データ	気象庁からのデータをそのまま、もしくは加工して すべての受信端末 に配信(地震が感じられない地域にも配信—ネットワークトラフィックを増加させる)	気象庁からのデータを受信し、各受信端末設置地点での震度と到達までの残り時間の予報値を演算し、地震の揺れが 所定値以上となる端末 に対してのみ必要な予報値だけを配信。
演算速度	受信端末のハードウェアと演算プログラムにより決定されてしまう。(演算は自地点一箇所のみ)	サーバの演算速度とサーバの台数による。高速サーバへの置き換え、台数の増加などにより向上させることができる。
演算精度に及ぼす因子	①時刻: 気象庁の時刻と受信端末内蔵時刻のずれがそのまま到達時間のずれとなる。 ②設定緯度経度: ユーザの設定間違いがあれば誤った地点の推定となる。	①受信端末は時刻を必要としない(サーバは気象庁と一致しているので時刻はずれない。) ②顧客の住所を交換してサーバに設定。(ダブルチェックで確認)
演算式の改良による予測精度の向上 (気象庁推奨)	個々の受信端末のプログラム交換。(実質的に困難)	サーバプログラムを改良するだけで、即、全受信端末が最新の演算結果を使用できる。
送信結果の記録 演算結果の記録 (気象庁推奨)	送信結果は配信サーバにて記録。演算結果は受信端末で記憶。(機種による)	配信結果演算結果ならびに受信端末の受信応答などすべての記録がセンターサーバにログとして記録される。
配信速度 (気象庁端末まで1秒以内指導)	インターネットの環境ならびに使用プロトコルおよびデータ量による。一般的には、サーバ演算方式よりもデータ量が多くなり、それゆえTCP/IPプロトコルを使用することになり、配信速度は遅くなる。	①データ量が小さい。(必要な結果のみ) ②閾値を越えた利用者のみに送信 (送信対象が少なく回線負荷が小さい) ③新開発のUDP/IP・SCB方式を採用しているとともに、データ量を1パケット以内に収めているので他のシステムに比較して速い。
その他の特徴 端末管理(気象庁指導)	受信端末で高速演算を行う必要があり、端末構成が高機能と成る。逆にそれゆえ信頼性が低下する可能性がある。	センターサーバでユーザの情報を一元的に管理している。 付加機能として、ユーザの 地域での地震震度予報などを携帯電話にメール送信することも可能である。

株式会社トータル・ライフサービスコミュニティーが関係特許 43 件出願済でその使用を Takus 株式会社が承諾されたものです。